

産業廃棄物焼却施設の維持管理基準（規則第 12 の 6）

No	維持管理基準	対応	
1	受け入れる産業廃棄物の種類及び量が当該施設の処理能力に見合った適正なものとなるよう、受け入れる際に、必要な当該産業廃棄物の性状の分析又は計量を行うこと。		
2	施設への産業廃棄物の投入は、当該施設の処理能力を超えないように行うこと。		
3	産業廃棄物が施設から流出する等の異常な事態が生じたときは、直ちに施設の運転を停止し、流出した産業廃棄物の回収その他の生活環境の保全上必要な措置を講ずること。		
4	施設の正常な機能を維持するため、定期的に施設の点検及び機能検査を行うこと。		
5	産業廃棄物の飛散及び流出並びに悪臭の発散を防止するために必要な措置を講ずること。		
6	蚊、はえ等の発生防止に努め、構内の清潔を保持すること。		
7	著しい騒音及び振動の発生により周囲の生活環境を損なわないように必要な措置を講ずること。		
8	施設から排水を放流する場合は、その水質を生活環境保全上の支障が生じないものとするとともに、定期的に放流水の水質検査を行うこと。		
9	施設の維持管理に関する点検、検査その他の措置の記録を作成し、三年間保存すること。		

産業廃棄物焼却施設の維持管理基準

(規則第12の7を受けた規則第4条の5第1項)

No	維持管理基準	対応	
2	イ ピット・クレーン方式によつて燃焼室にごみを投入する場合には、常時、ごみを均一に混合すること。		
	ロ 燃焼室へのごみの投入は、外気と遮断した状態で、定量ずつ連続的に行うこと。ただし、第四条第一項第七号イの環境大臣が定める焼却施設にあつては、この限りでない。		
	ハ 燃焼室中の燃焼ガスの温度を摂氏八百度以上に保つこと。		
	ニ 焼却灰の熱しやく減量が十パーセント以下になるように焼却すること。ただし、焼却灰を生活環境の保全上支障が生ずるおそれのないよう使用する場合にあつては、この限りでない。		
	ホ 運転を開始する場合には、助燃装置を作動させる等により、炉温を速やかに上昇させること。		
	ヘ 運転を停止する場合には、助燃装置を作動させる等により、炉温を高温に保ち、ごみを燃焼し尽くすこと。		
	ト 燃焼室中の燃焼ガスの温度を連続的に測定し、かつ、記録すること。		
	チ 集じん器に流入する燃焼ガスの温度をおおむね摂氏二百度以下に冷却すること。ただし、集じん器内で燃焼ガスの温度を速やかにおおむね摂氏二百度以下に冷却することができる場合にあつては、この限りでない。		
	リ 集じん器に流入する燃焼ガスの温度（チのただし書の場合にあつては、集じん器内で冷却された燃焼ガスの温度）を連続的に測定し、かつ、記録すること。		

産業廃棄物焼却施設の維持管理基準

(規則第12の7を受けた規則第4条の5第1項)

No	維持管理基準	対応	
2	ス 冷却設備及び排ガス処理設備にたい積したばいじんを除去すること。		
	ル 煙突から排出される排ガス中の一酸化炭素の濃度が百万分の百以下となるようにごみを焼却すること。ただし、煙突から排出される排ガス中のダイオキシン類の発生抑制のための燃焼に係る維持管理の指標として一酸化炭素の濃度を用いることが適当でないものとして環境大臣が定める焼却施設であつて、当該排ガス中のダイオキシン類の濃度を、三月に一回以上測定し、かつ、記録するものにあつては、この限りでない。		
	ヲ 煙突から排出される排ガス中の一酸化炭素の濃度を連続的に測定し、かつ、記録すること。		
	ワ 煙突から排出される排ガス中のダイオキシン類の濃度が別表第二の上欄に掲げる燃焼室の処理能力に応じて同表の下欄に定める濃度以下となるようにごみを焼却すること。		
	①処理能力4 t/h以上→0.1ng/m <sup>3</sup> ②処理能力2～4 t/h→1.0ng/m <sup>3</sup> ③処理能力2 t/h未満→5.0ng/m <sup>3</sup> ④製鋼の用に供する電気炉→0.5ng/m <sup>3</sup>		

産業廃棄物焼却施設の維持管理基準

(規則第12の7を受けた規則第4条の5第1項)

No	維持管理基準	対応	
2	カ 煙突から排出される排ガス中のダイオキシン類の濃度を毎年一回以上、ばい煙量又はばい煙濃度（硫黄酸化物、ばいじん、塩化水素及び窒素酸化物に係るものに限る。）を六月に一回以上測定し、かつ、記録すること。		
	ヨ 排ガスによる生活環境保全上の支障が生じないようにすること。		
	タ 煙突から排出される排ガスを水により洗浄し、又は冷却する場合は、当該水の飛散及び流出による生活環境保全上の支障が生じないようにすること。		
	レ ばいじんを焼却灰と分離して排出し、貯留すること。ただし、第四条第一項第七号チのただし書の場合にあつては、この限りでない。		
	ソ ばいじん又は焼却灰の溶融を行う場合にあつては、灰出し設備に投入されたばいじん又は焼却灰の温度をその融点以上に保つこと。		
	ツ ばいじん又は焼却灰の焼成を行う場合にあつては、焼成炉中の温度を摂氏千度以上に保つとともに、焼成炉中の温度を連続的に測定し、かつ、記録すること。		
	ネ ばいじん又は焼却灰のセメント固化処理又は薬剤処理を行う場合にあつては、ばいじん又は焼却灰、セメント又は薬剤及び水を均一に混合すること。		
	フ 火災の発生を防止するために必要な措置を講ずるとともに、消火器その他の消火設備を備えること。		

産業廃棄物焼却施設の維持管理基準（規則第 12 の7第 5 項）

No	維持管理基準	対応	
1	<p>           燃焼室中の燃焼ガスの温度を摂氏八百度（令第七条第十二号に掲げる施設にあつては、千百度）以上に保つこと。         </p>		
2	<p>           令第七条第十二号に掲げる施設にあつては、燃え殻を令第六条の五第一項第三号 チ又は同号 リ（2）に掲げる環境省令で定める基準に適合させること。         </p>		
3	<p>           令第七条第五号に掲げる施設及び同条第十二号に掲げる施設（廃ポリ塩化ビフェニル等又はポリ塩化ビフェニル処理物の焼却施設に限る。）にあつては、廃油が地下に浸透しないように必要な措置を講ずるとともに、第十二条の二第五項第二号の規定により設けられた流出防止堤その他の設備を定期的に点検し、異常を認めた場合には速やかに必要な措置を講ずること。         </p>		